

整備方針案たたき台(委員作成)

1. 将来に向けた施設像 (意見なし)

2. 本複合施設で求められるサービス

○児童館・子ども・若者向けサービス

児童館の『存続』を望む声が多い。これほどまでに必要とされる場所。児童館は地域の生命線である。

愛宕児童センターの完成に期待を寄せる一方で、東寺方児童館が担ってきた「いつもの大人が見守ってくれる安心感」や「気軽に立ち寄れる地域の居場所」が失われることが深く懸念されています。今後の整備には、これらのソフト面の価値をいかに維持・発展させるかが重要視されています。

そこで、以下を提案します。

《東寺方児童館の継続》

地域住民は、私たちの生活を支えてくださっていた職員さん達が常駐してくださることを強く望んでいます。

「いつもの職員さんがいてくれる」安心感が一番求められています。

《運営方法》

9:30～14:00 → 保育士等・乳幼児サービスを得意とする専門員を常駐させる。

14:00～18:00 → 学童クラブ、放課後子ども教室に関わるような専門員を常駐させる。

18:00 以降 → 中高生が自由な過ごし方ができる空間づくりを見守れるような大学生スタッフ等を常駐させる。

さらに新たなサービスとして、不登校の子が入り出りできるようなスペースを日中に設け、発達・リハビリの専門家を配置する。

ハード面としてはただ居場所を作るのではなく、今までの児童館が行ってきた様々な遊具や室内 ゲーム、乳幼児向けおもちゃの貸し出しシステムを継続し、子どもたちの遊びの幅を広げられるような施設を目指します。

子どもたちが『どこで遊ぶ』、『何で遊ぶ』を選べる環境づくりを大切にしたい。

○図書館サービス

現在の東寺方図書館の規模を変えずそのまま残しつつ、中央図書館を中核とした図書館ネットワークにおける地域図書館とする。本の閲覧、貸出、学習に集中できるスペースなど、利用目的に合わせたサービスを提供し、市民の「読む」「知る」「学ぶ」を支援する。

○新たなサービス

〈図書館〉

- 1.現在の蔵書量とスペースを維持した上で、新刊や話題性のある図書も地域図書館へ配置する。
- 2.PC 利用を考慮したコンセント設置の学習スペースを設ける。
- 3.貸出機の設置により貸出業務を効率化。
- 4.毎週金曜日は18時まで開館。
- 5.中学生が本の受取・返却を通学している学校の図書館で可能に。
- 6.事務室は職員が使いやすい・働きやすいことも考えて設置する。

○老人福祉館・市民ホール(貸室、フリースペース等)のサービス

主に求められるサービスについては、次のように考えて検討を進めたい。

1. 連光寺コミュニティ会館のように、多目的な大会議室と小規模な会議室を整備する。
できれば衝立てで仕切れるようにする。
2. カラオケや麻雀等で利用される集会室は、多目的大会議室に集約する。
3. 集会室の跡地は、個人でも利用できるラウンジとして整備する。
4. 既存の風呂は、コミュニティ、福祉目的から必要であり存続させる。
5. 既存の和室は、日本文化(茶道など)や幼児連れ家族の居場所として存続させる。
6. 施設の運営管理は、直営方式を存続させる。

○新たなサービス

人口減少や高齢化、孤立の問題、働き手不足が多摩市でも深刻になっていきます。一方で地域性を見ていくと、東寺方地域では人口は増えており、特に若い子育て世帯が増加傾向にあります。そのような環境の中で、東寺方複合施設のあり方が問われていると考えます。

地域協議会では、この東寺方複合施設を誰もが使いやすく、環境にやさしい、安心・安全な場所、公共であるからこそできるふらっと立ち寄れて相談できる、そして地域に愛される施設にすることを目指します。

児童館や図書館、地域活動や交流の場としてこれまで有してきた機能を維持しながらも、それぞれの機能が程よく重なり合う空間領域を確保することで、これまで施設を利用してこなかった地域住民や、世代間交流の機会の少なかった利用者を増やしていきます。そのための設備として、福祉的目的を含む充実した入浴設備、食を介したコミュニケーションを育むキッチン、通信環境や防音・音響の整備は欠かせません。また、誰もが使いやすい施設とするために、ユニバーサルカラーやユニバーサルデザインを取り入れます。

環境配慮型の施設としては、屋上へのソーラーパネルの設置、雨水利用、コンポストの設置を行い、自然との循環が感じられるコミュニティガーデンをつくります。

施設の外側にはテラスとフリースペースを設けて公園と接続します。テラスには施設への出入りができる開放的な扉を設置し、室内側はカフェスペースとすることで、施設利用者同士の交流の場、また公園で遊ぶお子さんを見守りながらテラスで談笑するお母さん方の交流の場としての利用を想定します。フリースペースでは、キッチンカーによる販売やイベント開催の場とすることで、公園と施設を緩やかにつなぐ仕掛けをつくります。

施設のこれまでの暗く閉鎖的なイメージを一新するため、道路側から施設の様子がよくわかるようにガラス窓を多く採用します。機能が程よく重なり合う空間領域においては、これまでのように壁で仕切られた個別の部屋ではなく、開放的で連続性のある空間設計とします。標識や掲示板はわかりやすく、愛着のわくデザインや内容にすることで、「来たい」と思える広報にしていきます。公共施設で重要な点として、利用者の困りごとを相談できる場であること、そしてその解決を図るために何をすればよいかを判断し行動できる職員がいることが挙げられます。そのような職員を事務室内に配置し、相談室を完備していることも大切な施設の機能です。

東寺方には、東寺方緑地保全地域という自然豊かな環境が残っています。このような自然の資源を暮らしに循環させていく拠点としてこの複合施設が機能することで、施設の存在意義はさらに大きなものとなります。

施設は建てて終わりではありません。施設の空間や設備がそこで行われる活動に利用しやすいものになることで、活動や利用者が増えていきます。様々な活動がこの施設で実施されることで、地域が豊かになり、暮らしやすい地域になることを期待します。

3. 施設整備の方法

(意見なし)

4. 管理運営に関する考え方

(意見なし)